

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/08/02 ～2019/08/31 )

多くの派遣留学生より一足先、8/2 にユバスキュラに到着し留学生活がスタートしました！

### 0. 準備について

派遣留学に向けての準備段階でかなり苦労したので今後、派遣留学に行く方が同じ思いをしないよう書いておきます。

留学準備といえばスーツケースに物を詰めるのはもちろんですが、旅行と違うのは書類の手続きがたくさんある点です。留学先の入学申請の際に必要な成績証明書、フィンランドに長期間滞在するために必要な在留許可証など色々な書類が必要になります。これらのものは1日2日でなんとかなるものではなく、ものによっては発行までに1ヶ月近くかかるものもあります。派遣先の大学からはかなり余裕を持って連絡がくるので油断してしまい、いざやろうと思ったときには時すでに遅しで間に合わない…なんてことも。実際、私は在留許可証が間に合わず、留学に行くこと自体が危うくなった時期がありました。支援室のスタッフの方、派遣留学先の International Office のスタッフの方、昨年度の派遣留学生、指導教員、両親などたくさんの方に迷惑をかけ、助けていただき無事派遣留学を開始することができましたが、渡航直前、日本にいる友達と思い出を残したい！パッキングをして留学に備えよう！という時期に本来なら心配しなくてもいいことでかなり精神的にも身体的にも追い込まれました。何もいいことがないので、これから行く人には早めに行動することを念押ししたいです。

### 1. 勉学の状況

#### ☆Suomi1 (Summer Intensive Course)

8/5 から 8/29 までフィンランド語のサマーコースに参加しました。秋学期にも開講されている授業ですが夏休み中に前倒しで受講することができます。私がこの授業を受けたのにはいくつか理由があるのですが説明すると長くなるので止めておきます。授業は月曜日から金曜日まで 90 分×2 コマで午前中の授業です。内容は、フィンランド語のアルファベットや数字、後半は自己紹介や身近な話題(食べ物、趣味、スポーツなど)に関する単語や文法が主でした。

クラスメイトはヨーロッパからの学生が多かったです。「初心者向け」という名目でしたが、フィンランド語についての知識を持っているクラスメイトもいました。

フィンランド語はローマ字読みなのでなんとなく読むことはできますが英語や日本語の単語との共通点が少なく、覚えるのに少し時間がかかりました。さらに、授業の最後に行われるテストでは半年で受講する通常の授業と同じだけの語学力が求められるため、特にリスニングは1ヶ月では厳しかったです。しかし、スーパーの値札や簡単な広告などを見て何が書いてあるのかわ

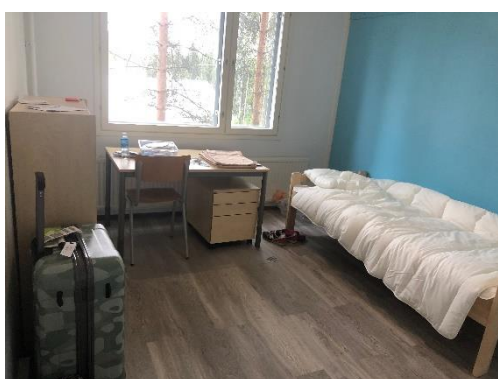
かるようになったり、習った表現をスーパーで使ったりするのは楽しかったです。フィンランド語だらけのスーパーでの買い物もかなり楽になりました。



↑ 講義で使用していた建物

## 2. 生活の状況

寮はキッチン、シャワー、トイレが共有の2人フラットです。フラットメイトは新学期から来るとのことだったので、8月中は1人暮らしでした。最初はフィンランド語が読めず、買い物にかなり時間がかかりました。また、日本では実家暮らしだったので料理のレパートリーが少なく、最初の方は毎日パスタばかり食べたりしていました。今では買い物も料理もだいぶ慣れました。物価は高いと思いきや食料品は日本と同じか少し安いぐらいです。生活用品もセカンドハンドショップで安くてよさそうなものをそろえることができます。高いのはアルコール類とレストランでの食事ぐらいです。



↑ 荷ほどき前のきれいな部屋



↑ 寮の近くの湖。冬にはオーロラが見える  
かもしれないらしいです…！

フィンランドでは日常生活の大抵のことは英語でなんとかなります。フィンランドに来る前は、フィンランド人の英語力が高いのは生活環境が英語で溢れているのだろうと考えていましたが、標識やスーパーの値札などはすべてフィンランド語です。もちろんフィンランド人同士ではフィンランド語で話しています。フィンランド人の英語力の高さの謎は深まるばかりです。学部の授業では英語教育に関するものを受講しようと考えているので、フィンランド人の英語力が高いわけがわかるかもしれないと期待を膨らませています。

日本の梅雨が明けてから間もなくフィンランドに来たため、最初の頃は日本の夏を満喫したかったと思うこともありました。しかし、今は8月にフィンランドに来ることができてよかったと思っています。湖で泳いだり、森の中のアスレチックに行ったりフィンランドの夏にしかできないアクティビティをたくさん経験することができました。フィンランドの人は自然の中で遊ぶのが上手です。厳しく日があまり昇らない冬を知っているからこそ、晴れている日には外に出て森に行ったり湖に行ったりして楽しむのだと思います。そう考えると晴れている日に部屋でスマートフォンをずっと触っていた日本での日々はもったいないように感じます。

来週からいよいよ学部の授業が始まります。季節や環境の変化を楽しみながら過ごしていきたいです。最後は、買い物の帰り道に出会った野生のハリネズミの写真でお別れです。見た時、思わず「えっ!？」と声が出てしまいました。



Moimoi!!  
(またね!!)

←買い物帰りに見つけたハリネズミ  
他にもリスや野ウサギをよく見かけます

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/01 ～2019/12/31)

### 1. 勉学の状況

9月から学部の授業が始まりました。ユバスキュラ大学では SISU という千葉大学でいう学生ポータルのような電子システムを使って履修登録を行います。SISU にシラバスのようなものが掲載されていますが、見てもザックリしすぎていてイメージがわきにくいことに加え、履修取消はいつでもできるため、「とりあえず興味がある授業は受けてみよう！」という心持の方が良いと思いました。私は SISU 内のザックリしたシラバスのみで履修を決めようとしてかなり頭を悩ませました。

また、こちらの大学は日本のような決まった時間割がありません。授業によって始まる日にちや授業 1 回あたりの時間、1 週間に行われる授業回数など異なります。そのため、履修する授業によっては時間が重なってしまうこともあります。学部や授業回数によりますが私の所属している教育学部では 1,2 回授業が重なってしまうと教授に相談すれば、履修の許可がもらえました。

私は今期、英語教育の授業 3 つ、ICT の授業 1 つ、フィンランド語の授業を 1 つ履修しました。授業内容と受講した印象を紹介していきます。

#### ☆Foreign Language Pedagogy

外国語の教授法をはじめ、外国語指導に当たって教師が持つべき基礎的な知識を学びました。事前に指定された論文を読み、授業内ではグループでディスカッションやアクティビティなどを行いました。千葉大学でも、すでに同じような内容の授業を履修していましたが、この授業のグループディスカッションやアクティビティを通して、学んだことに対して自分なりに考えを持つことができました。より深い理解につながったと感じています。

#### ☆Language, Literature and Culture

報告書やシラバスを見て、文学や文化を「どのように教えるか」や「どのように教材として扱うか」を学ぶことができると思っていたのですが、文学や文化とは「何か」に近かったです。あるセミナーに参加し、そこで感じたことを詩や絵本で表現する活動を行いました。私はかなり苦戦しましたが、クラスメイトの発表を聞いて表現方法や言葉選びなど勉強になりました。期待していた内容とは少し異なっていましたが、自分が学びたかったこととこの授業で学んだことは結びついているので、「どのように」については自分で考えを深めようと思います。



←セミナーで作ったフクロウの飾り  
 セミナーやイベントなど講義以外の学びの場にも多くの  
 学生が集まっています。

#### ☆Content and Language Integrated Learning (CLIL)

外国語で他教科を学ぶ教育法(CLIL)について学ぶ講義です。講義内ではCLILの理念や実践例等をディスカッションやアクティビティを通し学びました。加えて、近くの小学校に何度か授業見学をさせてもらいました。授業方法や指導内容のみでなく学級経営や先生方の子ども達との関わり方も大変勉強になりました。授業見学をさせていただいた中でアルファベットへの身近さも英語力に関係しているように感じました。通年の授業なので春学期も引き続き頑張りたいと思います。

#### ☆Information and Communication Technology

パワーポイントやGoogle ツール等の基本的な使い方やプログラミングの指導について学びました。特にプログラミング指導の回で紹介されたソフトとICT機器が印象的でした。この授業では、紹介と実践が多かったため、学んだことを実際の授業でどのように使用するか、どのようにプログラミングを指導するか考えたいです。



←授業内で紹介された Bee-Bots というプログラミングを学ぶことのできる機器。

#### ☆Suomi2

最初の方は Finnish1 の復習だったので余裕もありましたが、後半になるにつれて内容が複雑になっていくことに加えて、先生の説明もフィンランド語だったのでついていくのが大変でした。授業を受けていて、4技能をバランスよく伸ばす活動が組まれていると感じました。一方で、語彙力は自主的に伸ばすものという印象を受けました。語彙面でも授業頼りにしていた面があったので、もう少し自主的に勉強するべきだったと振り返って

ます。私は将来、子ども達に英語を教えたいと考えています。子ども達が「英語(言語)がわからない」と感じる気持ちを知りたいと思い、フィンランド語の授業を受講していました。フィンランド語向上にはまだまだ勉強が必要ですが、子ども達を感じるであろう「わからない」気持ちを実感できた点で学びはあったと思います。

授業の紹介は以上です。私の受けた授業はレポート形式での最終課題が多く、すべて12月初旬に締め切りでした。今学期、教授が余裕を持った締め切りを提示してくださったにも関わらず、先延ばしにしてしまい11月末から追い込まれました。学期末と天気の悪く気分の落ち込みやすい時期は重なっているので、自ら追い込まれないためにも出された課題から少しずつやるのが大事だと痛感しました。

## 2. 生活の状況

9月に入り気温がグッと下がったと同時に、日照時間がどんどん短くなっていきました。日の短さが原因で気分が下がる時期がありましたが、タイミングよく秋休みがあり休息を取ることができたのであまりひどくなりませんでした。天候だけではなく、本格的に授業が始まったことによる悩みや疲れも重なったのだと思います。私は自分が派遣留学選考の時に書いた志願理由書を秋休み中にもう一度読み、再びやる気になることができました。その時期は少しつらかったですが自分を見つめなおすきっかけにもなりました。それからの冬季うつ対策として、ビタミンDを意識的に摂取することはもちろん、イベントに参加したり体を動かしたりと積極的に外に出るようにしています。学期末も友達と一緒に学校で勉強し、家に1人である時間を短くすることで乗り切りました。

冬休みはフィンランド内やヨーロッパ諸国を旅行しました。特にフィンランドのラップランド地方に行ったときに見たオーロラは美しさに感動し、泣きそうになりました。ほかにもサウナ後に積もった雪に飛び込んだり、犬ぞりに乗ったり、貴重な経験ができました。



←ラップランド旅行の際に見たオーロラ

見られる可能性が低い予報だったので、見る事ができてうれしかったです。



また、クリスマスには Finnish Family Program でお世話になっている家族の家におじゃましました。サウナに入ったり、フィンランドのクリスマス料理を食べたりとゆったりとしたクリスマスでした。ヨーロッパでは、クリスマスは家族で過ごす日で正月は友人や恋人と過ごす日らしいです。日本では反対であることを伝えると、とても驚いていました。



←クリスマスにいただいた食事

留学も折り返しです。秋学期は学問面でも精神面でも発見が多く、成長できたと実感しています。一方で、まだ留学生活でやりたいことが残っています。春学期は秋学期の反省を生かして、悔いのない留学生活を送りたいです。それでは。

Moimoi!!



↑Finnish Family と作った雪だるま。  
人生ではじめて雪玉を転がして作りました！

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/01/01～2020/05/31)

コロナウイルスの影響で本来 5 月末に帰国予定だったところ、3 月末に急遽帰国しました。今回の報告書では、帰国後も含め留学修了時までの事について記載します。

### 1. 勉学の状況

後期は 1 月初旬からオリエンテーションや授業が始まりました。後期は、授業以外にも自分の興味のあることに取り組めるように履修する授業を前期より減らしました。その中でも印象的だった授業について、内容と受講した印象を紹介します。

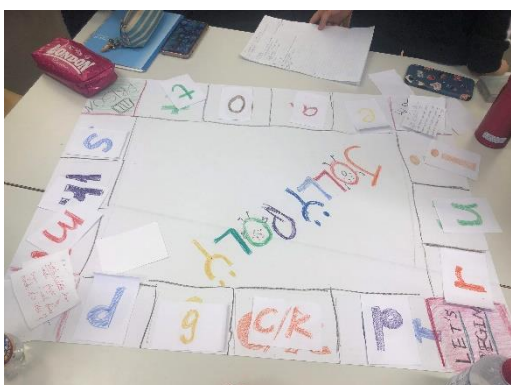
#### ☆Variety of English

世界で話されている英語の多様性に関する授業でした。毎回、担当学生がディスカッションリーダーを務め、提示されたテーマについてグループでディスカッション（またはアクティビティ）を行うという形式でした。この授業で多くの留学生が経験するディスカッションについていけない…という壁に私もぶつかりました。アカデミックな内容では、自分の考えと照らし合わせながら話を聞くのが難しく、進んで自分の意見を言うことが少なかったです。自分がプレゼンを担当する回も学生に伝えたいことが伝わっているか不安であたふたしてしまい、自分の英語力不足を感じた授業でした。しかし、授業内容は興味深く日本だったらどうだろうなあ…と思いながら授業を受けていました。オンラインに切り替わってからは、Zoom でプレゼンの発表を聞き、Padlet というサイトに自分の意見を書き込む形になりました。

#### ☆Creative and Cultural Language Development

留学前から受講しようと思っていた授業の 1 つです。英語を学び始めた子どもたちへの英語の文字（綴り）と音の指導方法（フォニックス指導）について学びました。アクティビティの作成や実践が多かったです。この授業で何より印象的だったのは、毎回のようにクラスメイト全員が大笑いしながらアクティビティに参加していたことです。元々、フォニックス指導に対して単調になりがちという印象を持っていましたが、この授業を通してアクティビティの工夫次第だなあと考えがガラリと変わりました。最後に小学校で授業実践をする予定でしたが、コロナウイルスの影響で中止になってしまったのが残念です。





←授業内で作ったアクティビティの1つ  
(すごろく)

### ☆Teaching Practice for International Students

留学生を対象にした教育実習の授業です。大学の附属小学校のクラスに配属され、自由に授業や学校内を見学することができます。私の配属クラスは3年生でした。見学させていただいた授業の中に配属クラスの子どもたちが1年生と交流する時間がありました。3年生が中心となってグループでUNOやボードゲーム、iPadを使ったリズムゲームをしていました。日本で教育実習を行った際の他学年交流は、合唱の合同練習やたくさん授業時間をかけて準備をしたイベントに下級生（または上級生）を招待するというような形が多かったので、違いに驚きました。



↑教室の様子



↑職員室の様子

ほかにも、Each One Teach One という言語交換プログラムでフィンランド語と日本語の言語交換をおこなったり、秋学期から履修していた Content and Language Integrated Learning (CLIL)の授業では各国の CLIL 事情について学んだりもしました。

フィンランドでの勉強を通して、英語教育に関する新しい視点と知識を得る事ができました。それと同時に、自分の教育や英語に関する知識不足も感じました。留学先で学んだこと、感じたことを活かし、今後、日本での勉強に取り組みたいです。

## 2. 生活の状況

毎年、1月2月は-20度にもなり、雪が降り積もると聞いていましたが、今年はこちら100年で1番の暖冬だったらしく気温は寒くても-10度、0度を超える日も多く例年ほどの積雪ではなかったようです。雪での生活に慣れていないためホッとした一方で、フィンランドらしい冬を経験できなかったのは少し残念です。3月にもなるとだんだんと日の出時間が早くなり7時にはまぶしいと感じ、目が覚めるようになりました。

春学期は、大学外での活動にも挑戦しました。1月頃から子ども向けにイベントを行う団体と連絡を取り、日本文化を紹介するイベント”JAPAN EVENING”を行わせていただくことになりました。その団体のスタッフの方は、私からの連絡を受けて JAPAN EVENING を行うことを提案してくださいました。やりたいという意味を伝えるとどんどん話が進んでいき、そのフットワークの軽さに驚きました。同じユバスキュラ大学に通う日本人留学生からは、ある団体に日本語のレッスンを行いたいと伝えたところ、その場で実施することが決まったという話を聞きました。日本では、実行に移すかどうかの段階で様々な可能性を想定し慎重に判断しますが、フィンランドでは実行に移すかどうかの判断は早く、細かいことはあとで考えるというような違いを感じました。日本に留学経験のあるフィンランドの友人が「フィンランドは日本より新しいことに挑戦しやすい環境だ」と言っていたのですが、その背景にはこのような考え方の違いが関係しているのではないかと思いました。結局、コロナウイルスの影響でイベントは行うことができませんでしたが、自分から進んで行動できたことが秋学期と比べて成長した点だと思います。

また、JAPAN EVENING を行う予定だった団体のスタッフの方がとてもよくしてくださり、休日にフィンランドの名物であるシナモンロール(Korvapuusti)とカレリアパイ(Karjalanpiilakka)というミルク粥をライ麦粉の生地で包んだパンを一緒に作りました。スーパーで買ったものももちろんおいしいですが、焼きたてのパンは比べものにならないくらいおいしかったです。一緒に作ったスタッフさんの娘さんは、日本に興味があるらしく「将来、日本に行くために今からお金を貯めている」と言っていました。日本に来たときは是非会おう、と話しました。



↑シナモンロール(Korvapuusti)



↑カレリアパイ(Karjalanpiilakka)

他にも Finnish Family とアイスフィッシング（湖に穴を開けて行う釣り）をしたり、先ほど書いた日本人の留学生が企画した日本語レッスンのお手伝いをしたり授業以外にも学びの多い春学期でした。



↑例年より暖かいと言ってもこんな日も



↑冬の湖



↑アイスフィッシングの様子



↑ムーミンワールド（ナンタリ）

### 3. コロナウイルスについて

今年、コロナウイルスの感染流行により3月25日にフィンランドを発つ飛行機で早期帰国をしました。滅多にないことではありますが、自分にとってかなり衝撃的な出来事だったため、時系列で記録したいと思います。

**1月中旬**：香港の友人からコロナウイルスの話を知る。心配するも大変だなぁ、日本は大丈夫だろうか…と思う程度。

**1月下旬**：首都ヘルシンキで感染者が出たという情報が入る。しかし、友人らとは「ユバスキュラは人もそこまで多くないし、安全だね」と話していた。

**3月上旬**：ユバスキュラ大学からはこの時期からコロナウイルスに関するメールがよく来るようになる。（海外の渡航禁止、帰国後14日間の自宅待機等）しかし、授業は通常通り行われ、私も含め学生の危機感は薄かった。

- 3月9日**：千葉大の留学課から安否確認と留学継続の意思を確認するメールが届く。留学を中断するという選択肢はなかった。両親とも話し、フィンランドにいた方が安全だという理由で即継続を決定。
- 3月13日**：ユバスキュラ大学から次週からオンライン授業へ移行するという連絡が来る。この週末までは授業も全くいつも通りに対面で行われていた。近隣の小学校や中学校もオンラインに切り替わり、外部の人は入れなくなってしまった。
- 3月16日**：千葉大学から帰国するようにメールが来る。13日の時点で帰国の可能性を考えていたが、やはりショックだった。この頃から、町中に人が少なくなり、トイレトペーパーやハンドソープがなくなる。
- 3月18日**：フィンランドが国境を封鎖し、日本に帰国できないという情報が回る。(のちにうその情報だとわかる。) 帰国する飛行機を決める。また、日本時間 21 日から、日本でヨーロッパからの帰国者を対象に水際対策が始まるとニュースで見ても、調べるも具体的なことが何一つわからず、困惑した。
- 3月23日**：フィンエアーから 25 日以降のフィンランド⇒日本行きの飛行機を全便運休すると連絡が入る。私はもともと 25 日に帰国予定で航空券を取っていたが、25 日以降に取っていた友人はすごく焦っていた。
- 3月25日**：ユバスキュラからヘルシンキへ移動夕方の便で成田空港へ出発する。飛行機は 3 人席の真ん中が座れなくなっており、空港のスタッフさんや CA さんはみんなマスクをしていた。
- 3月26日**：無事、日本に帰国する。

3月に入ってから、状況がめまぐるしく変わっていきました。ユバスキュラ大学では、3月13日にオンライン授業への切り替えのメールが来ると、翌週16日には対面で行っていた各授業のオンラインでの対応、さらには新しいオンラインコースの開設を知らせるメールが送られてきました。小学校もすぐにオンライン授業に切り替わったようで、切り替えの早さに驚いたとともにフィンランドの学校の電子機器の普及率やインターネット環境が整っている事を改めて感じました。

また、帰国が決まってから私は比較的落ち着いて過ごしていましたが、中には様々な情報に振り回され、精神的に不安定になってしまう日本人留学生もいました。焦りや不安を感じるとどうしても判断力が鈍ってしまいます。そういうときこそ、人からの情報を鵜呑みにせず、落ち着いて自分の目で正確な情報を確認することの重要性を感じました。(とはいっても、いくら調べても信頼のある情報が入らないこともありました。)



## 4. 最後に

留学が決まってから帰国まで、留学課のスタッフの方を始め、指導して下さった先生方、両親、友人ほんとうにたくさんの方に支えられました。この場を借りて、感謝申し上げます。支えて下さった皆様のおかげで、とても充実し、学びの多い留学生活を送ることができました。この報告書が今後、留学を考えている方や留学予定の方のお役に少しでも立てれば幸いです。

それでは。

Moimoi👏

